

〈児童一人一人の思いをとらえる工夫〉

事前にイメージマップを作成して児童の意識を把握しておく。授業の導入では、作文や具体物によって北山の自然への関心を高めて、自分のしたいことを意識させる。さらに、KJ法により、一人一人の思いを生かした活動計画を立てていく。

④ 学習過程

学習内容・活動	時間	○支援 ◎評価 ☆仮説との関連
1 自分の見つけた秋を教えあう。	15	○ 自分の家や学校の回り、通学路など、身近な秋を紹介させる。 ☆ 北山の自然への関心を高め、自分のしたいことをはっきりさせる。 ・Y子の作文(どんぐりを見つけた) ・どんぐりごま、どんぐり人形、リース、落ち葉のしおり ・家族からの情報 ・秋コーナー
2 秋探検で、したいことをカードに書く。	10	○ なかなか書けない児童へは、紹介された中で、したいことを考えるよう助言する。 ◎ 秋探検への期待をふくらませ、したいことを進んで書くことができたか。
3 教師と一緒に、カードを整理し、探検の計画を立てる。	20	○ カードを分類・整理し、模造紙に貼って掲示する。 ☆ KJ法により、児童の思いを生かした計画を立てる。

[検証授業 2]

① 単元名 見つけたよ、北山のあき

② 本時のねらい

北山の秋ランドに1年生を招待し、自分の見つけた北山の秋を紹介したり、一緒に遊んだりして、地域の自然への気付きを深める。

③ 本時の意図

〈気付きを広げる支援の工夫〉

探検終了後に、気付きを伝え合う場として本時を設定した。1年生を招待することにより、教えたい気持ちが高まって、活動が一段と活気づくものと思われる。友達の発表から、さらに自然への気付きが広がり、また友達のよさを認識することにもなる。教師からは、活動中見取った、発表者の気付きのよさを認めたり、賞賛したり、紹介したりしたい。友達や1年生、教師に認められたときに、価値ある気付きが一層自覚され、今後の活動の自信となるものと考え

る。

〈一人一人の思いをとらえる〉

発表会終了後、イメージマップを作成し、事前に書いたイメージマップと比べ、秋をたくさん見つけ楽しく関わった満足感を味わわせたい。

④ 学習過程

学習内容・活動	時間	○支援 ◎評価 ☆仮説との関連
1 発表の仕方を聞く。 ・ポスターセッションの形で発表する。 ・1年生にも北山の楽しい秋がよく分かるように発表する。	5	○ 友達の発表を聞いて、話し合ったり一緒に遊んだりする。 ○ 1年生にもよく分かる発表(声の大きさ、実演など)になるよう心がけさせる。
2 自分の見つけた北山の秋について発表したり、友達の発表を聞いたりする。	55	☆ 児童の気付きを賞賛し、探検活動の中で見取った気付きも紹介することによって、他の児童に気付きのよさを広げる。 ◎ 自分の見つけた秋を教え合うことができたか。
3 探検を振り返り、イメージマップを書く。	15	☆ 一人一人の自然への気付きの広がり、深まりをイメージマップでとらえる。
4 感想を書き、発表する。	15	○ 事前に書いたイメージマップと比べさせる。 ◎ 北山の自然への気付きを深めることができたか。

2 検証授業の実際と考察

(1) 検証の観点

次の3つが研究主題に迫るための手立てとして有効であったか、児童の活動、振り返りカード、イメージマップ、アンケートをもとに考察する。

① 児童一人一人の思いをとらえる工夫 (KJ法、イメージマップ、カルテ、振り返りカード)

② 探検活動における、自然との出会わせ方の工夫 (自然素材の提示、環境づくり、場の設定)

③ 気付きを広げる支援の工夫 (対話による共感、賞賛、カルテや振り返りカードの活用)

(2) 授業の概要と手立ての実際

[検証授業 1]

本時は、単元導入の時間である。北山の秋への関心を十分に高め、自分のしたいことを自由にカードに書き、それを整理して (KJ法)、